

## 八ッ場ダム住民訴訟通信-118

2016年6月3日発行

**敗戦は必至でも国民を戦火に放り込んだ軍官僚。  
水余りを知りながら責任引取水に突き進む役人と首長たち。  
懲りない面々が、国も県も市町村も破たんさせる。**

編集子の昔話になります。昭和28年、中学一年の一学期だったか、授業の一環として「原爆の子」を鑑賞しました。当然のことながら感想文の提出が待っていました。先生が何を期待しているかは承知の上で、編集子は「原爆が落とされなかったら、当時の指導者は戦争を止められなかったではないか。責任は指導者にもある」と書きました。後日、アメリカに同じ考えがあることを知りますが、担任にはきつく叱られたことを覚えています。

原爆の投下はもちろん許されません。しかし戦争責任を問わずにきたこの国は、始めたら止められない公共事業で、再び“敗戦の惨禍”に陥ることは必定です。その時、八ッ場ダムや霞ヶ浦導水の現地に「過ちは繰り返しませぬ」の碑でも建てるのかしらん。

**ここにいた懲りない面々。霞ヶ浦導水事業促進を求める首長たち。**

霞ヶ浦導水が完成する2023年には責任引取水が実施されます。その時、最も影響を受けるのは県中央の水道事業者です。下の表はその時想定される事業者の負担です。

中央広域水道用水関係市町村の契約状況と責任引取水 水量単位:トン/日

	現在の解約水量	責任引取水量	増える水量	増額(千円/年)
水戸市	4,742	30,400	25,658	745,108
笠間市	14,200	28,438	14,238	413,472
常陸大宮市	1,600	8,200	6,600	191,664
那珂市	4,804	11,500	6,696	194,452
かすみがうら市	1,400	6,700	5,300	153,912
小美玉市	200	600	400	11,616
茨城町	1,000	3,400	2,400	69,696
大洗町	4,016	30,300	26,284	763,287
東海村	2,900	12,262	9,362	271,872
湖北企業団	8,760	38,800	30,040	872,362
ひたちなか市	10,949	69,400	58,451	1,697,417
合計	54,571	240,000	185,429	5,384,858

※増額の計算方法：増える水量×基本料金2,420円×12ヶ月＝増額

負担額は中央広域水道全体で年間約54億円の増加。この負担は住民の水道料金の値上げに直結します。ところが、そんなことは百も承知の首長たちが、昨年5月、霞ヶ浦導水事業早期完成の要望書を提出しています。滑稽なほど悲しいのは、それより先2012年には「人口が減少し水道料金収入が減っている。せめて県からの供給料金を下げて欲しい」と要望書を提出していることです。住民の生活を守り、自治体の財政を守るはずの首長たちが、かくも愚行を繰り返す様は、敗戦に突き進んだ軍官僚となんと似ていることでしょう。

## 若宮戸の築堤は“ただのドテ”。

### 上三坂の復旧堤防は“半耐越水堤防”。この差はナニ？

通信-116号でご紹介した上三坂地区の築堤工法は、川裏法面の遮水シート被覆こそありませんが、川側の法面には使っています。中途半端ながらもアーマーレビー(耐越水堤防)かな？という代物です。ところが若宮戸の築堤工法は、川裏ばかりか川面の遮水シートも使わない“ただのドテ”。この違いは何なのか。国はダムリを決めこんでいます。

もともと上三坂の堤防決壊の原因は、下の図のように堤防を越えた洪水が川裏の法面を

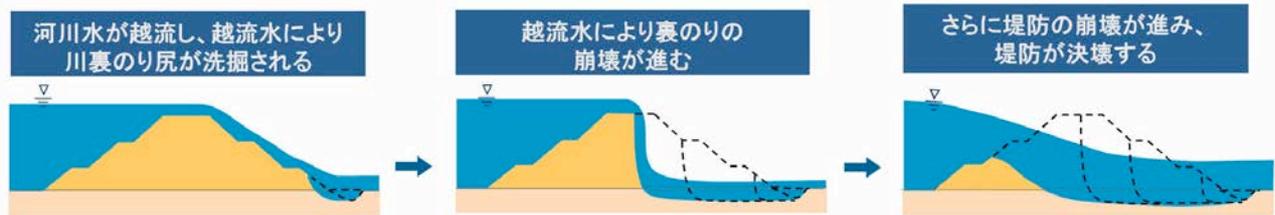


図 3.1 越水による堤防決壊のイメージ図

削り決壊に至ったと、鬼怒川堤防調査委員会報告でも明らかにしています。関係者、関係機関すべてが知っていながら、それでも上三坂は裏法面の遮水シートを省きました。その上、若宮戸は“ただのドテ”。9月洪水の傷跡も生々しいのに「大洪水に“ただのドテ”で立ち向かう」のかしら。そういえば終戦の直前、B-29の大爆撃に「竹やりで立ち向かえ」といってました。70年たっても何にも変わらない。恐ろしい国に生まれてきてしまった。

## 報じられないもうひとつの熊本地震。

### 立野ダム工事現場大崩落。完成していたらダム津波の大惨事。

4月14日から始まった熊本地震は本体工事に入ったばかりの立野ダムを襲いました。立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野溪谷にあり、カルデラ内の水は同溪谷を通過して白川となり有明海へと注ぎます。



写真：立野ダムにたよらない自然と生活を守る会

想像するまでもなく、外輪山が陥没してできた立野溪谷はぼろぼろの地質。下流住民の反対を押し切って強行する工事現場は両岸が崩落。写真は破壊された仮排水トンネルですが、工事用道路、現場事務所、工事車両、各種工事機械も埋没。地震が深夜でなかったら多くの犠牲者がでたでしょう。また完成後であったら崩落土砂によるダム津波が起き、2000人以上の犠牲者を出したバイオントダム(1963年・イタリア)の悪夢の再現も想像に難くありません。

八ッ場ダムも浅間の噴火物でなる吾妻溪谷に造られています。とても他人事では済まされません。日本列島が大きな地殻変動期に入った今、無用のダムのために多くの犠牲を払う愚かさを反省すべきでしょう。

八ッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表：濱田篤信 船津寛

事務局：神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯：090-4527-7768